

公益財団法人
豊橋文化振興財団情報誌

2016年5月-6月

vol. 19



TOYOHASHI
ARTS
THEATRE
PLAT



構成・演出 平田満

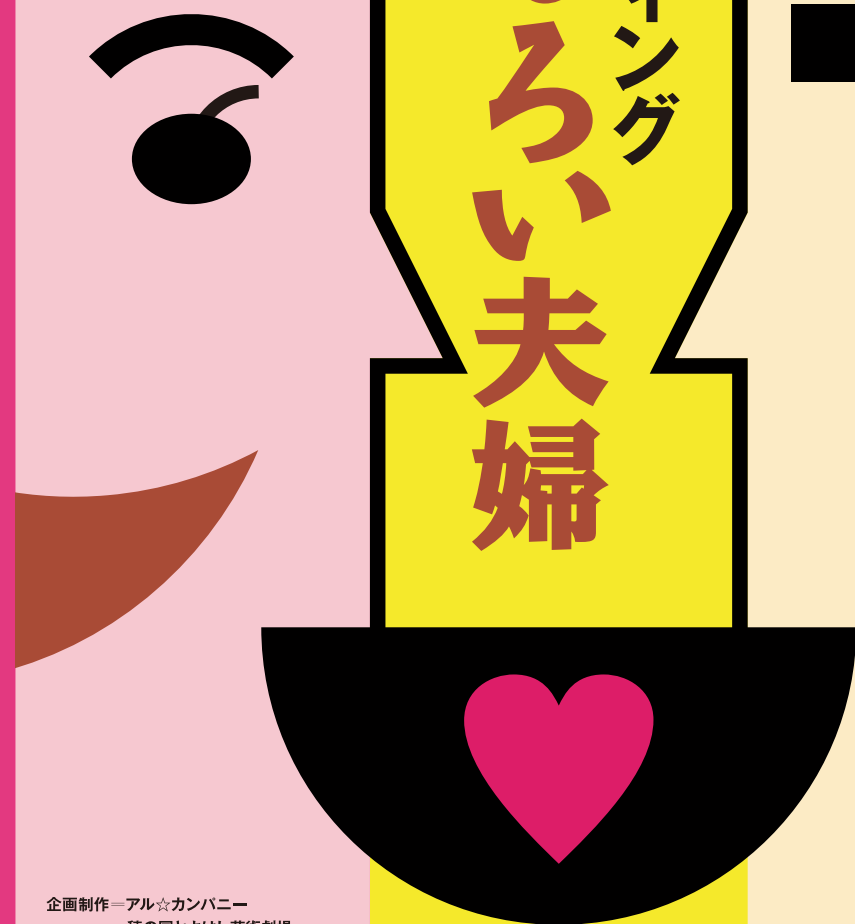
詩のリーディング
(お)もろい夫婦

現代詩新人賞、萩原朔太郎賞受賞の詩人・平田俊子の
おかしくも切なく、切なくもブラックな世界を中心に



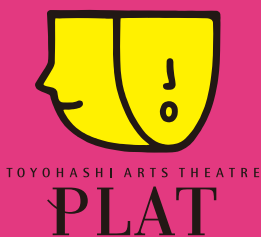
ポスターデザイン 松吉太郎

出演 平田満
井上加奈子
平田俊子



企画制作 アルカンパニー
穂の国とよはし芸術劇場
主催 公益財団法人豊橋文化振興財団
後援 豊橋市
協賛 三遠機材株式会社

2016年4月22日(金) 19:00開演 | 23日(土) 14:00開演 [開場は開演の30分前]
穂の国とよはし芸術劇場 PLAT アートスペース



—野村萬齋さんとシェイクスピアの出会い？

萬齋——(演者として)初めてシェイクスピアと出会ったのは「リア王」をベースにした黒澤明監督の映画「乱」に出演した時です。その後、1990年に東京グローブ座で「ハムレット」(渡邊守章演出)を演じたのが、シェイクスピアにどっぷりと浸かるきっかけになりました。難解ながら「演劇のデパート」ともいわれるシェイクスピアは、やはり面白く、翌年にイギリスで行われたジャパンフェスティバルに、狂言とシェイクスピアのコラボレーションで参加する話に発展しました。

そこで「ウィンザーの陽気な女房たち」を題材にした「法螺侍」という新作狂言を上演。これが非常に好評で、シェイクスピアを演じる楽しさが分かったことに加え、狂言の手法を使って演じることの面白さに気が付き、1994年から1995年にかけてロンドンへ演出の勉強に行きました。

同じ古典でも、狂言は演出もほとんど踏襲していく型の極まったものですが、シェイクスピアはもとのやり方があかっておらず、自由に発想できる。そこでシェイクスピアというワールドワイドな作品に能狂言の手法を使うことで、我々もいろんな飛躍ができるのではないかと考えました。

第一弾は、例えるなら修士論文のようなものですが、「まちがいの喜劇」を翻案した「まちがいの狂言」というのを2001年にやりました。その後、「リチャード三世」を翻案した「国盗人」、そして博士論文と言ってよいのか、ともかく集大成として、この「マクベス」に辿り着きました。

—シェイクスピアと能狂言は一見遠く感じますが何か通じるものはありますか？

萬齋——不思議なことに、まず大本であるロンドンのグローブ座が四角形なんですよ。三間四方という能舞台と非常によく似ています。能舞台も今や室内にあることが多いですが、もともとは野外にありました。相撲にしろ能舞台にしろグローブ座にしろ、実は元々野外にあって、四角形で柱があって屋根を持って、裸舞台で照明を使わない中で、昼も夜も朝も表現するのが原則になっています。

そこは古典劇同士の共通点です。現代的なハイテクを使うのも面白いけれど、それ以上に単純な、けれども効果的なトリックみたいなものを使っていたのだろうとい

INTERVIEW

6月25日[土]／26日[日] 両日13:00開演

原作=W.シェイクスピア

翻訳=河合祥一郎

構成・演出=野村萬齋

出演=野村萬齋、鈴木砂羽、小林桂太、高田恵篤、福士恵二

会場=PLAT主ホール

マ

【関連企画】

「マクベス」プレトーク

日時=6月24日(金)19:00-20:30

会場=PLAT 研修室(大)

出演=河合祥一郎

(英文学者・東京大学大学院教授)

ク

ベ

ス

撮影・谷古宇正彦

構成・演出 野村萬齋に聞く

能狂言の叡智を詰め、進化を遂げた野村萬齋版「マクベス」

う点も想像できます。

すると、普段は見えないものが見えるようになります。シェイクスピアには魔女や亡霊というものがよく出てきます。中世では人々は聖書を読み、神とともに生きることがすべてといった、非科学的なと言ったら怒られるのかもしれませんが、そういう時代の中で、自然現象とか、太陽、天動説など、人間が自我よりも、神に仕えて生きている時代だったわけで、当時は亡霊や魔女のような神秘的な力を、もう少しリアリスティックに考えていたはずなんです。

ということを可視化する時に、我々狂言師は、古典の技法を活かして、面や音楽を使って表すことができる。現代的な特殊メイクを施した虚仮威しにするよりも、何か精神性に訴えてくるような、外側からではなく、内側から恐怖を感じさせるような、そういう発想が僕らにはある。

大概のシェイクスピア作品で亡霊が出てくるとがっかりします。現代の人間がいくら特殊メイクやカラーコンタクトをしたからといって、存在感自体が普通の人間でしかないので、超常現象には見えない。我々はそういう時に身体性を発揮して、すり足を使ってまるで宙を浮くように歩いて見せることができます。頭はロボットのように固定して、微動だにせず水平移動する、そこに自然を超越した力を感じるわけです。

いろいろな意味で能狂言は中世の演劇のバリエーションを持っている、だからこそシェイクスピアという世界に通じる作品で我々の知恵を自己発信し、狂言師として世界に打って出る意義があると考えました。

—逆に日本の古典とシェイクスピアの違いはどんなところに感じられますか？

萬齋——シェイクスピアは饒舌なんです、喋りまくる。日本人は間、空間を好む民族で、わざと省略して言葉に出さない、あるいは墨絵のようにあえて色のないものを見せることで、見る人に問いかける、想像力に訴えかけるという発想があります。

シェイクスピアはそれを言葉で埋めてしまう。そして登場人物が多い。能狂言ではそんなにゴロゴロと登場人物が出てくると困るということもあって、能では1人に集約していく。狂言でも3人くらいまでの演技構造です。僕の考えではだいたい演劇というのは、3人までで構成されます。1人のモノローグ的なもの、ダイアローグと

して対立する存在、その2者が喧嘩した時に中立する第3勢力までがほぼ芝居を作っていて、それを細かくすると第4、第5と派生していくけれども、それは第3の片割れみたいなもので、だいたい3で済むんですよ、芝居というものは。と、僕は思っています。

—3者が話を作っている？

萬齋——主に2人です。「マクベス」でいえば魔女たち、マクベス夫妻、そして他の人々ですね。そこにマクダフだ、マルカムだと、マクベスに似たような名前の人たちが沢山出てきて(笑)、それがもうややこしい。これはそんなに複雑な話なのか?と、能や狂言の発想で考えていくと、僕には魔女と夫婦の話に見えてきた。もちろん夫婦を1人1人で考えてもいいわけですが、これが1人の人格の中の欲望と理性をキャッチボールしながらやっているようにも見える。

そういう構造を考えていくうちに、マクベス夫妻に対立する勢力はマルカムだろうがマクダフだろうが、あんまり関係ないんじゃないかというふうに読めてきたわけです。

マクダフというのは大変重要な人物だけど、あえて捨ててしまう。魔女3人とマクベス夫妻、そして魔女が演じる他の登場人物たち。だから出演者は5人だけでいい。

ここでは魔女たちが宇宙を支配し、自然を支配するように芝居を司り、マクベス夫妻を混乱に陥れる。魔法をかけているがごとくに、マクベス夫妻は現実を見ているのか、夢を見ているのか、あるいは見せられているのか分からなくなる、そこが僕の発明だと思っています。

—「マクベス」が萬齋シェイクスピアの集大成的な作品となった理由は？

萬齋——「法螺侍」、「まちがいの狂言」と喜劇的なものから入って、「国盗人」は「リチャード三世」という、極悪人だけど非常にトリッキーな、どちらかというと前半はコミカルとっていい人物に移行していきました。

「リチャード三世」と「マクベス」の類似性はよく論じられるところですが、「マクベス」に至ると、時代的にもシェイクスピアの中でも古いものから段々と新しい時代に移るわけです。中世から段々近代に移っていく、マクベスはその狭間にいる人物なので、自我というか、現代劇的な部分を増していきます。

ハムレットはまさしくその境目だといわれ、昔は神様 10頁に続く

野村萬齋[のむら・まんさい]／1966年生。狂言師。人間国宝・野村万作の長男。重要無形文化財総合指定者。「狂言ごころ乃座」主宰。国内外の狂言・能公演はもとより、『まちがいの狂言』など狂言の技法を駆使した舞台や、『国盗人』『敦-山月記-名人伝-』など古典芸能と現代劇の融合を図った舞台を演出・主演。芸術選奨文部科学大臣新人賞、文化庁芸術祭演劇部門優秀賞、紀伊国屋演劇賞など受賞多数。世田谷パブリックシアター芸術監督。



とよはしアートフェスティバル 2016

大道芸 in とよはし

5月4日【水・祝】11:00~19:00 / 5日【木・祝】11:00~17:30

会場=PLAT北側広場、PLAT北側ロータリー、ココラベニュー 2Fテラス、豊橋駅南口駅前広場、
 広小路一丁目(精文館前)、広小路一丁目(ユメックス前)、広小路二丁目(蒲信前)、豊橋公園花時計前

撮影・宮田明里

「大道芸 in とよはし」の仕掛け人 橋本隆雄の熱い思い

—今年の「大道芸 in とよはし」のテーマは？
 橋本—テーマは「アートがこぼれる」です。初回からずっと変わりません。劇場からアートが飛び出していく。アートの日常化というのが私の終生のテーマです。

これはフランスのミッテラン政権が提唱した政策の一つで、事の起りは1968年、パリの学生がド・ゴール政権に反発して暴動を起こした五月革命です。世界各国でベトナム反戦運動や学生運動が活発に行われていた時期で、この暴動は労働者や市民も巻き込み、30万、40万というもの凄い数の人たちが参加しました。結果、ド・ゴール政権は終焉を迎えます。

次に大統領に就任したのが社会党のミッテランでした。ミッテランは荒廃したフランスを立て直すには文化国家になるべきと考え、アートの日常化を政策の一つに掲げました。

つまり「劇場から外へ出よう」ということです。この動きが一つの巨大な文化運動になり、有名なアーティストたちが次々とストリートに飛び出しました。

大道芸は「テアトル・ド・リュウ」と呼ばれるようになります。「道の上のアート」という意味です。私は非常に魅力的な言葉だと感じ、これを日本で実現したいと強く思うようになりました。アートは非常に生産性があるもので、市民力を上げる。私は、アートは経済に直結していると信じ35年も大道芸だけをやっています。

—開催場所はどのように選んでいるのですか？

橋本—基本的に「世田谷パブリックシアター」や「座・高円寺」「まつもと市民芸術館」「東京芸術劇場」など、劇場のある地域で行っています。商店街のためだけにはやらない。劇場というのは一つの閉鎖空間です。中に入らないと何があるのか分からないし、入ったらそう簡単には出られません。けれども非常に都合のいい空間でもあり、海の底から宇宙までどんな世界でも完全に作り上げることができます。

ストリートで宇宙空間を作ろうとしても、そういう風には見えない可能性が高い。条件は良くありませんが、先程の「テアトル・ド・リュウ」の考えに沿って、劇場でパフォーマンスをしてきた人たちが劇場を突き破って外に出ると、市民は否応なしにそれを見ることになる。つまりアートを体験できるわけです。伝統芸能にしてもコンテンポラリーアートにしても現代演劇にしても、知らない人のところには情報はいかない。しかし、一度見てしまうと不思議なもので、劇場やアートに対しての予備知識が自然に得られるようになります。すると、劇場にも入りやすくなる。これは大きな文化運動につながります。そのためにはクオリティが高く、芸をしっかり磨き上げたアーティストを呼ぶことが秘訣です。

—橋本さんがおすすめする大道芸人を教えてください。

橋本—全部ですが、しいて名前を挙げるなら、音楽では「竹内直」というテナーサクソ奏者。彼は初回からずっと出演していますが、このフェスティバルの看板アーティストです。海外からは「The English Gents」というイギリスの2人組。お笑いといいますか、ハンドトッハンドという逆立ち技などを見せるパフォーマーが出演します。ヨーロッパで最も人気が高い「Fraser Hooper」。何が何だか分からないおばちゃん、お客を全員躍らせちゃう「加納真実」。非常に完成度の高いアーティストばかりです。

橋本隆雄【はしもと・たかお】 / 1986年に立ち上げメンバーとして「野毛大道芸」をスタートしてから四半世紀。「三茶 de 大道芸」「ひたち国際大道芸」「テアトル・ド・リュウ-東京」「高円寺びっくり大道芸」「まつもと街なか大道芸」などを次々とプロデュース。審査会に合格したアーティストにライセンスを発行し、都有地など活動場所として開放する東京都の「へブンアーティスト」制度の創設や、若いアーティストの海外派遣にも尽力。2014年3月に芸術選奨文部大臣賞を授賞。

大道芸人15組38名。アートが街に飛び出していく。

——一流の大道芸人とは？

橋本——先ほど、私が名前を挙げた大道芸人は60代くらいから、50代、40代の方たちです。20、30代ではたいしたものできません。粘りと体験、いろんなのが必要です。大道芸人にはすぐなれそうな気がするの、希望者はいっぱいいます。大学でもジャグリングクラブや同好会が人気ですね。で、技が少しできるようになると大道芸人としてストリートに出てきてしまう。しかし、人前に立つにはまだまだですね。

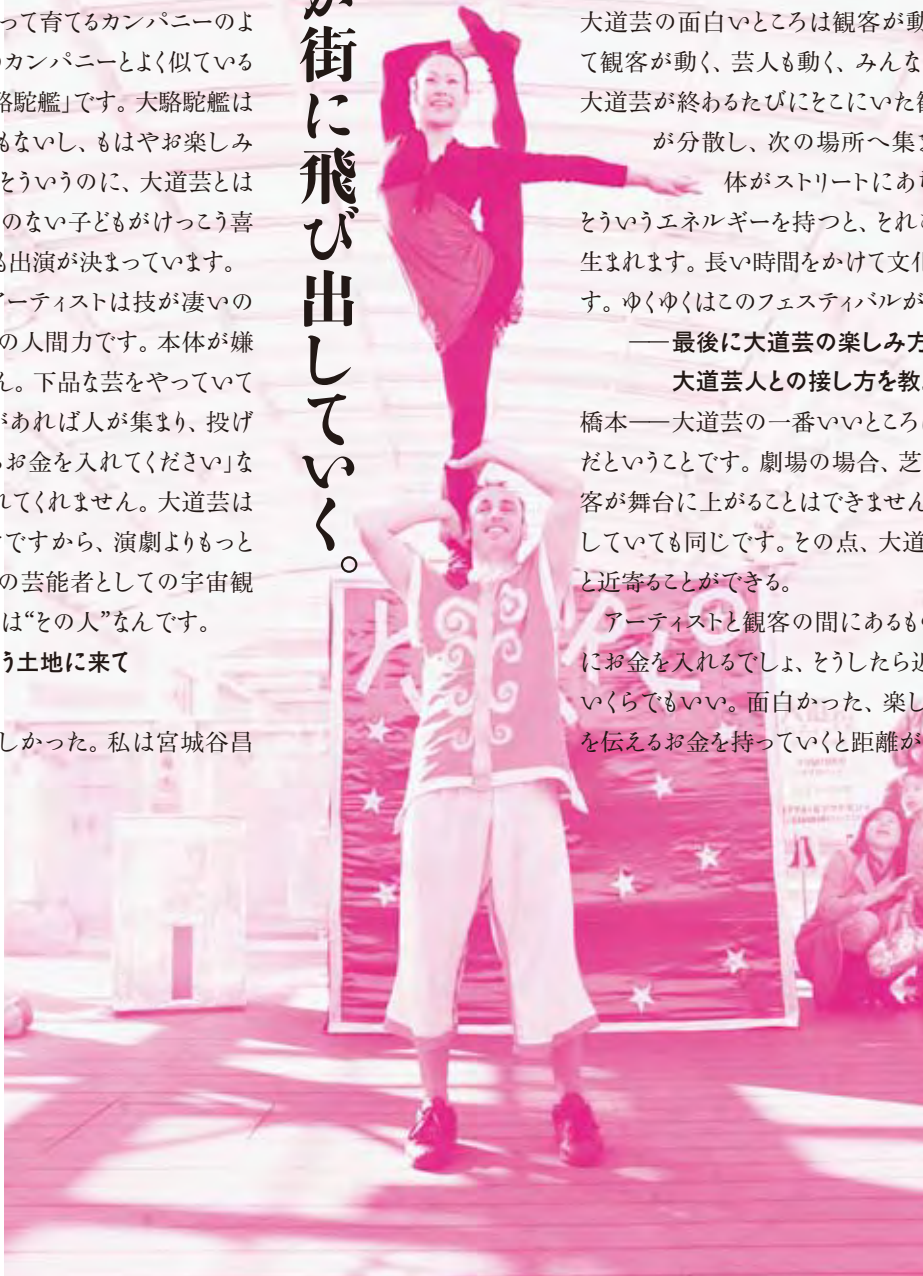
4年前から東京芸術劇場で「ストリートアーティスト・アカデミー」を開校し、大道芸の成り立ちや世界の現状、哲学などを一から教えています。人前に立つには役割があり、芸能には資質がある。芸能者としての自分、人間性を磨いていく必要があります。大道芸は形式を超えた非常に自由なもので、どっちかという合理主義の反対。モダンアートのありようです。演じると合理的にやりたくなりますが、ステレオタイプになる。それでは大道芸とはいえません。

日本には大道芸人をまとって育てるカンパニーのような場が少ない。ヨーロッパのカンパニーとよく似ているのは、鷹赤児が主宰する「大駱駝艦」です。大駱駝艦は合理的でもないし、具体的でもないし、もはやお楽しみ大道芸の域を超えています。そういうのに、大道芸とはこうあるものだという予備知識のない子どもがけっこう喜びますね。今回、「大駱駝艦」も出演が決まっています。

世界的に凄いいわれるアーティストは技が凄いいのではありません。アーティストの人間力です。本体が嫌な奴だったら誰も見に来ません。下品な芸をやっている、刺青だらけでも、人間力があれば人が集まり、投げ銭が入るんです。「よかったらお金を入れてください」なんて敬語で言っても、誰も入れてくれません。大道芸はその人の本体が出ていくわけですから、演劇よりもっと裸に近い。ですから、その人の芸能者としての宇宙観が必要になってくる。大事なものは“その人”なんです。

——橋本さんが豊橋という土地に来て感じたことは？

橋本——豊橋はものすごく嬉しかった。私は宮城谷昌



YUMIRKO

光先生の大ファンです。古代中国の英雄を描いた作品が多いけれど、『風は山河より』くらいから三河を舞台にした作品をたくさん書くようになりました。だから時間がある時は少し足を伸ばして豊橋周辺の町に行ってお楽しみしています。

三河的な性質がすごくある土地です。なんていえないのかな、馴れ馴れしくない。笑いの好みとしては、奇をてらわれない正面からの芸が喜ばれますね。私も斜に構えた笑いというのはしたくないので、ほんと正面からぶつかっていくようなアートを楽しんでもらいたいと思っています。

——会場の一つに豊橋公園が追加されました。

橋本——豊橋公園は黙っていても人が集まるところです。だから普通の大道芸ではなく、ミュージカルみたいにちゃんと仕込もうと思っています。大道芸にはこれだけの見せ方があることを意地になって見せたいです。

今は市内各所に点在していますが、それをつなげたい。時間がかかるけれど、絶対につながりますよ。

大道芸の面白いところは観客が動くんです。次を求めて観客が動く、芸人も動く、みんなが動きます。一つの大道芸が終わるたびにそこにいた観客、一つの集合体が分散し、次の場所へ集まっていく。その集合体がストリートにあちこちできる。市民がそういうエネルギーを持つと、それこそとんでもない力が生まれます。長い時間をかけて文化が地域をつくるんです。ゆくゆくはこのフェスティバルが大名物になりますよ！

——最後に大道芸の楽しみ方 大道芸人との接し方を教えてください。

橋本——大道芸の一番いいところは観客と目線が同じだということです。劇場の場合、芝居が終わった後、観客が舞台上がることはできません。いくら友達が出演していても同じです。その点、大道芸はショーが終わると近寄ることができる。

アーティストと観客の間にあるものは帽子だけ。帽子にお金を入れるでしょ、そうしたら近くにいける。金額はいくらでもいい。面白かった、楽しかったという気持ちを伝えるお金を持っていくと距離がなくなりますよ。

Fraser Hooper コメディ

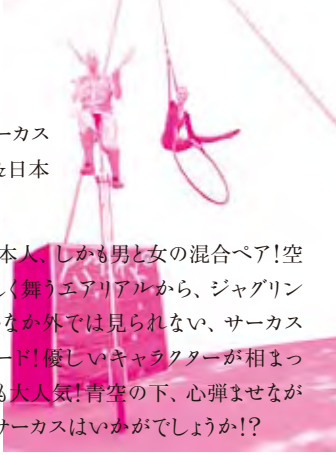
From イングランド



コメディって最高！笑うって最高！今こそ必要なのは、コメディアンの方！数々のフェスティバルで大人気、世界中の人が笑った、今、最も注目すべきコメディアン！コメディの世界に、国境も言葉も関係なし！可笑しければ、笑うだけ！さあ一緒に笑いましょう！！

YUMIRKO

エアリアル&サーカス
From スペイン&日本



スペイン人と日本人、しかも男と女の混合ペア！空中を舞台に美しく舞うエアリアルから、ジャグリングなどなど、なかなか外では見られない、サーカス芸のオンパレード！優しいキャラクターが相まって、子供たちにも大人気！青空の下、心弾ませながら楽しむプチ・サーカスはいかがでしょう？！

テクリーノ

レストランコメディ



街中に突然オープンする不思議なレストラン！果たして今日は、どんなメニューでOPENするの？オシャレでシニカル、でも笑わずにはいられない！？何が起ころか分からない！ハラハラドキドキの30分をお楽しみに！そうそう皆さん、くれぐれも鳩にはご用心！？

ココナツ山本

ポールダンスコメディ



うさん臭さ溢れるジャケットに、デカイ竹の棒。この男、見るからに怪しすぎる。でもこの面白さ、吸い寄せられて離れられない…。「ババ、アクが強いつて、こういう人の事を言うんだね。」「そうさ、でも嫌いじゃないだろ？いや、むしろ好きだろ？」という感想を覚えがらのパフォーマンス！！

大井貴司&なつ

ヴィブラフォン & マリンバ



なんとあのアニメ「レインズ世」のテーマのヴィブラフォンを担当した事でも有名であり、世界最高のヴィブラフォン奏者として名高い「大井貴司」。今回は、マリンバ奏者「なつ」との師弟関係で、フェスティバルに初参戦！本物のサウンドの快楽！絶対聞くべき！これは聞き逃したらもったいない！！

The English Gents

アクロバットコメディ
From イングランド



彫刻のような肉体美とジェントルな笑顔！軽々とアクロバティックな技を披露したかと思ったら、ボケとツッコミも抜群で、もう笑わずにはいられない！ハンサムでマッチョ、エレガントなのに、面白！世の中の男子が求めるものを全て兼ね備えた、恐るべき2人組！！

ゴールデンズ from 大駱駝艦

舞踏



世界的舞踏集団、大駱駝艦の舞踏手による、ゴールデンズが繰り広げる異・怪・愉・快、空間！情熱的かつ野性的な踊りを、群れ踊り、躍動し、儀式的に踏み舞います。からだの豊かさ素晴らしさ、肉体の持つエネルギー&パワーを是非とも間近でご覧ください！！

マサトモジャ

マジック



赤い傘と赤い鼻のモジャモジャヘアー。絶妙な間合いで、グイグイとトリッキーな世界に引き込む、ストリートマジック界の若き至宝！心の隙間を埋めてくる、世界に通じるその感性！ゆるやかに喜び伝える伝道師！あなたもきつと、愛さずにはいられない！！

Stiltango

足長タンゴ



街中を優雅に練り歩き、踊りだしたその場所全てが、舞踏会のダンスフロアに移り変わる！男と女。交錯する影と情熱的なステップ！映画のワンシーンみたいに美しい光景！豊橋がまるで遠いヨーロッパの街角に！！

ブラックエレファント

JAZZ



トロンボーン&トランペットを中心とした熱きプラス編成！トランペットの高らかな爆発音、トロンボーンボディに響く低音は、激アツ間違いない！ルックスは怖いけど、皆さんに迫る音はとっても優しい！みんなで一緒に盛り上がりましょう！！

中国雑伎芸術団

中国雑伎
From 中国



バランス・軟体・アクロバット、磨き抜かれた身体が魅せる、壮絶な技の数々。観る者の想像を軽く凌駕する驚きの連続に、息を呑むのも忘れてしまうほど！はたして今年は何な技が繰り出されるのか？それは見てのお楽しみですよ！！

加納真実

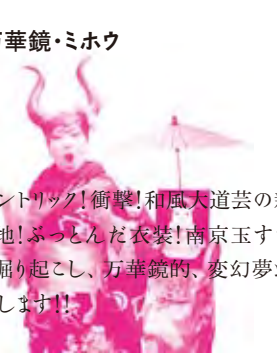
パントマイム



有無を言わせないギリギリの狂気…！！大ヒットした歌謡曲にのせて、奇妙な青いジャージ姿の女が、ストーカーまがいに追ってくる！？これは芸なのか？いやアート？それとも…。これぞ、冷静と情熱の間の、その隙間。一度見たらもう最後。抜け出せない加納ワールドをご堪能あれ！！

和風大道芸 万華鏡・ミホウ

和風大道芸



スーパーエキセントリック！衝撃！和風大道芸の新たな境地！新天地！ぶっこんだ衣装！南京玉すだれ！日本の芸を掘り起こし、万華鏡的、夢幻夢幻の世界でお届けします！！

竹内直 & Wagan brothers

JAZZ&アフリカンパーカッション
From セネガル&日本



SAX奏者 竹内直を中心に、Wagan brothersを加えた、この豊橋のみで実現しているお馴染み超スペシャルユニット！超一流ミュージシャン達が奏でる複雑に絡み合うリズム&体の芯に直接訴えかけてくる強烈なサウンドは、絶対に聞き逃したら、もったいない！突き動かされる欲望にまかせて、さあ踊ろう！！

川島由美

ソプラノヴォーカル



街をバラ色に染める、美しいソプラノコンサート！音楽劇やミュージカル、数々のクラシックジョイントコンサートに出演する傍ら、ソプラノ弾き語りスタイルで、日本の童謡・唱歌・世界の名歌など、本物の音楽文化を広めるため、街頭でも演奏。その歌声で街を華やかに、軽やかに彩ります。



—平田満さんと井上加奈子さんがアル☆カンパニーを立ち上げたのが2006年。最初に手掛けた「(お)もろい夫婦」が、新宿三丁目の小劇場 SPACE 雑遊のオープニング記念公演だったんですね。

平田—そうです。劇場工事の遅れもあっていろいろ苦労しましたが、予定通りお正月公演が実現。演劇関係者の方にもたくさん来ていただきました。それ以来アル☆カンパニーは、SPACE雑遊がホームグラウンドだと思っています。「(お)もろい夫婦」は2007年に再演、2009年には新詩集「宝物」を加え「(お)もろい夫婦／宝物」として上演しました。10年目を迎えたアル☆カンパニーがこの作品を豊橋で公演することは、PLATの芸術文化アドバイザーの私自身にとっても感慨深いですね。私たちは劇団というかたちをとらず、毎回劇作家、演出家、俳優が、創造的にコミュニケーションを重ね、人間主体の演劇公演を目指してきました。

私の演劇人生の出発点でもあったシンプルで実験的な小劇場の舞台にはこだわりつけています。

—豊橋公演での「(お)もろい夫婦」の見どころはどこにありますか？

平田—アートの空間に合わせて、新たな構成と演出を試みています。平田俊子さんの特別出演も注目できますし、私と井上加奈子の実際の夫婦がどんな(お)もろい夫婦を見せる(聞かせる)のかも楽しんでいただきたいですね。

俊子さんの詩の底流にあるおかしさ、せつなさ、ちょとしたスリル感などが、リーディングという表現を介してどんな世界に描き出せるのか、新しい試みも随所に見つけていただけるのではないのでしょうか。たとえばリーディングの調子は講釈師のように、漫才のように、またサスペンスドラマのようにと、さまざまな状況や心理を表現します。

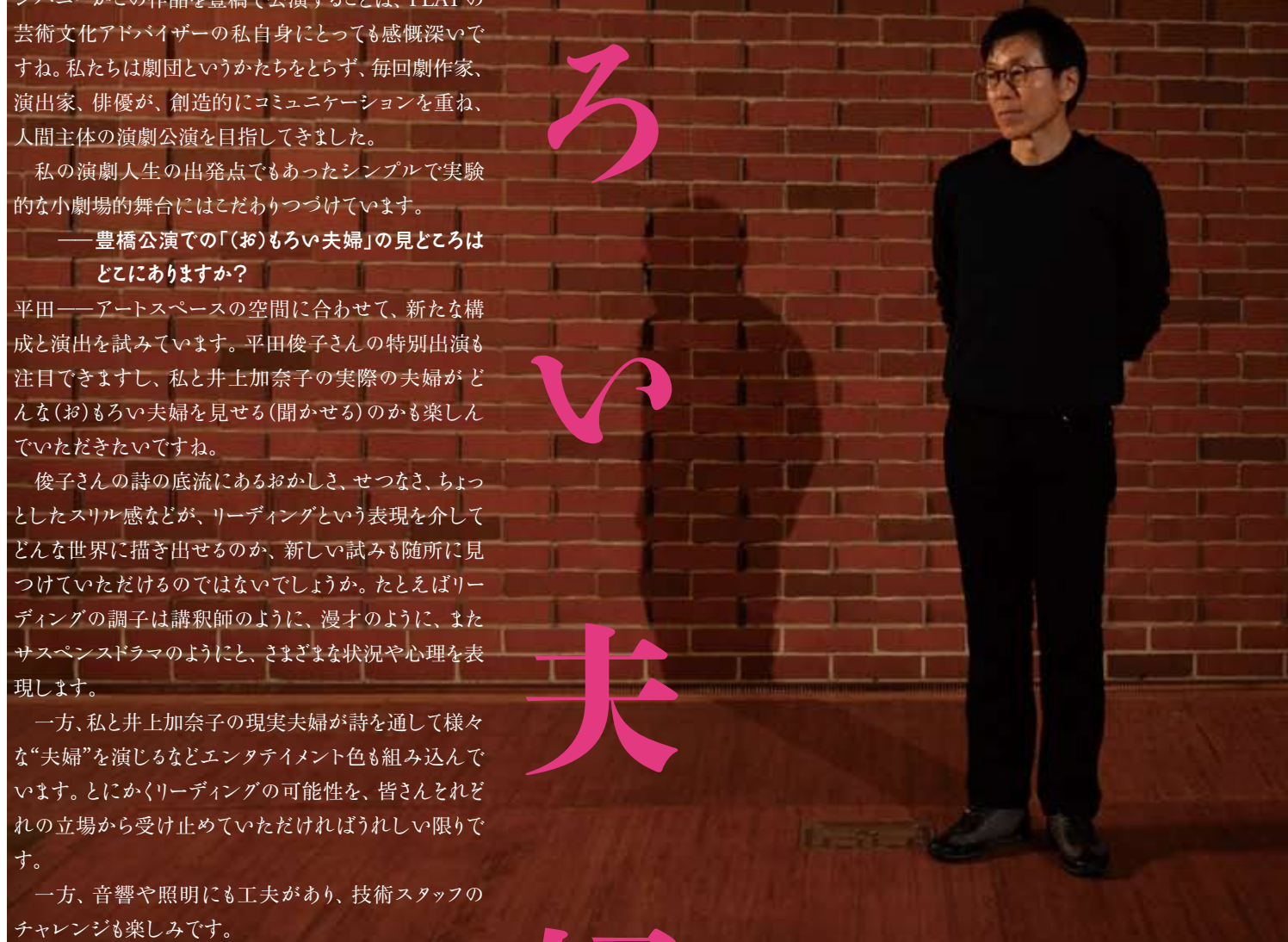
一方、私と井上加奈子の現実夫婦が詩を通して様々な“夫婦”を演じるなどエンタテインメント色も組み込んでいます。とにかくリーディングの可能性を、皆さんそれぞれの立場から受け止めていただければうれしい限りです。

一方、音響や照明にも工夫があり、技術スタッフのチャレンジも楽しみです。

—主に言語を介した表現芸術として詩と演劇(戯曲)との関係、またリーディングという表現形式がずいぶん増えている印象ですが？

平田—文学というジャンルでとらえると、韻文として

もろい夫婦



撮影・宮田明里

現代詩新人賞、萩原朔太郎賞受賞 詩人・平田俊子の世界！
聞き手 中島晴美穂の国とよはし芸術劇場PLATシニアプロデューサー

平田満が語る、詩のリーディング

の詩の対極にあるのが散文としての小説で、その中間にあって両者をつなぐのが戯曲であり演劇だ、と言った人がいました。少々大胆な切り取り方をすれば、詩はもともと作者が表現したいことを100パーセント言い尽くすものではなく、どこかやややが漂っている。読者もある程度自由な解釈やイメージを広げて読む。一方小説の読者は作者の世界にどっぷりつかり、その物語性や仕掛けに導かれて楽しむところがあります。多くの小説が舞台をはじめ映画やテレビドラマで演じられ、詩がリーディングという表現を通して舞台になる。演劇には小説と詩の異なる世界を受容できる幅があり、表現の可能性を秘めているわけで実に楽しい。

私自身は詩人ではないから、作品を朗読するということが自体にはどこかおこがましさを感じる。詩人ぶってもだめなんですね。役者に徹して平田俊子さんの詩をどう演じ、自分自身がどう楽しむかという姿勢から、新しい発見や感動も生まれるんだと思います。

—最初に平田俊子さんの詩を取上げたのはなにか理由があったんですか？

平田—俊子さんの詩との関わりは井上加奈子を経由してです。俊子さんの詩のファンだった彼女に言われて初めて読んだとき、実に不思議な感動を覚えました。それまで私が抱いていた現代詩のイメージが吹き飛びました。難解な言葉もなく、カッコもつけず、身近な会話や普段着の言葉の中に、おかしみや残酷さや官能が垣間見える。これは芝居にしたら面白いなと。面白いけれどこちらの想像力や表現力を厳しく試され、大変な作業だとも感じました。だからこそ挑みたくなったわけですが。

すでに10年が経ちましたが「(お)もろい夫婦」のリーディングはまだまだ完成していません。とにかく奥が深い。たぶん終わりのないチャレンジがつづくでしょうね。

—詩人の俊子さんにとっては、自作のリーディングで演劇にチャレンジすることになるんでしょうか？

平田—俊子さんは以前から朗読には積極的です。詩人同士が自作の詩を朗読し合い、どちらが観客の心に響いたかを競う「詩のボクシング」にもチャレンジしていました。ちなみにライト級世界チャンピオンは、初代がねじめ正一、2代目は谷川俊太郎、3代目が平田俊子さんです。声と言葉の格闘技と言われるこの大会は、詩を書くことにとどまらず、つぶやき、叫び、笑い、泣き、わめきといった音声と融合し、詩人自らが実に豊かな演劇的体験を楽しんでいるのではないのでしょうか。彼女

は詩作だけじゃなく戯曲も手がけていますから、演劇やパフォーマンスアートにも関心をお持ちだと思います。そんな俊子さんが特別出演するわけで、演出者の立場からもいろいろ刺激されますね。

—リーディングは演劇の原点と言えますね。音楽や舞踊などにも共通していますが時にそこに立ち返ることは大事なことです。

平田—その通りです。リーディングはさまざまな演劇表現の源流です。舞台装置のあれこれを削ぎとって、肉声だけを頼りに表現する、いわば裸のパフォーマンス。それだけに演じ手はすべてを晒して、さあ見てくれっていう覚悟が求められます。

音楽で言えばホールでのコンサートではなく、ストリートミュージックや、民族の心をそのまま発露するフォークソングかな。舞踊なら衣装などの演出のない素踊りでしょうか。シンプルだけに表現の真髄というか、本物の価値が鮮明に見えますね。

「(お)もろい夫婦」のほかに、私もいくつか朗読劇というリーディングをやって、そんな実感を持ちました。一昨年の6月にPLATで上演した太宰治の「ヴィヨンの妻」の朗読。紀尾井小ホールでは、リーディング用に書きおろされた台本で山頭火を、また神奈川近代文学館での「野火」の朗読や、豊橋市民文化会館で子どもたちと一緒に「鉄道員」の朗読劇もやりました。

PLATの魅力は、こうした実験的な試みをお客様と一っしょに体験できる一方で、完成度の高いシェイクスピアなどの舞台も楽しめる場所ですね。そこへ行けば、いつでも体験と発見のよろこびがある、そんな空間であり続けたいですね。

4月22日[金] 19:00開演・23日[土] 14:00開演

詩＝平田俊子

構成・演出＝平田満

出演＝平田満、井上加奈子、平田俊子

会場＝PLATアートスペース

平田 満[ひらた・みつる]／1953年生まれ、愛知県出身。つかこうへい事務所にて俳優活動をスタート。その後は映画・テレビ・舞台などに数多く出演。映画『蒲田行進曲』で日本アカデミー賞主演男優賞など受賞。主な舞台に『熱海殺人事件』『ART』『海をゆく者』『失望のむこうがわ』など。『海をゆく者』『失望のむこうがわ』で第49回紀伊國屋演劇賞個人賞受賞。2006年よりアル☆カンパニーを設立。『ゆすり』『罪』『家の内臓』『冬の旅』『失望のむこうがわ』などを制作。

能狂言の叡智を詰めた「マクベス」
構成・演出 野村萬斎に聞く



鈴木砂羽

3頁より続く

によって我々は生かされているという発想だったのに、「生きるべきか死ぬべきか」と、そういうふう揺れる人物を描き始めた。まさしく中世から近代への変換期だともいわれるわけです。

「ハムレット」では揺れる近代性を描きながらも、父という亡霊が出てくる。「マクベス」にしても、魔女という超自然的な存在がありつつも、人間が自我を抑えきれず欲望に突き進みながらも、そこに苛まれていく。自己呵責というか、そういうものが入ってくる所に近代性がある。というふうに、僕自身も勉強していき、中世的な喜劇から近代的な悲劇まで、自然なスライドでした。そして能狂言の叡智を詰めたというか、シェイクスピアというごった煮のものを能狂言で抽出したのがこの「マクベス」です。

—今回、4度目の上演となりますが
とくにポイントとなるのは？

萬斎—まずはメインキャストのマクベス夫人が鈴木砂羽さんになりました。秋山菜津子さんという女優とはまた違う個性ですし、なかなかユニークな方なので(笑)、彼女の伸びやかな発想に期待します。

僕は「あぐり」というドラマで共演した時から彼女のことを面白くてチャーミングな方だと感じていました。僕も月並みな発想よりは、人と違うものでないと面白くないと考える方なので、彼女は僕のやりたいことを歓迎してくれる印象があった。今回も狂言師と、魔女役の天井棧敷(寺山修司主宰)の系譜の人たちと鈴木砂羽さんという珍しい組み合わせがどんなことになるのかを期待していただきたいです。

音楽も一歩踏み込んで生演奏を入れようかと企画中です。音楽監修を尺八演奏者の藤原道山さんをお願いして、生演奏でもっと一体感を出したいと考えていま

す。より「和」になっていくでしょうね。天井棧敷(万有引力)の人たちも狂言師も生演奏に慣れているので相乗効果を上げることができると思います。

道山さんには日本のスコットランド=津軽というイメージで伝えてあります。ブリテン島の北部にあるスコットランドと、本州最北端である津軽というところに、何となく僕はスコティッシュブレインならぬ津軽ブレインじゃないですけど、冷たい海の飛沫を感じるようなものを津軽三味線に期待したい。奇しくも寺山修司さんも津軽出身ですし、三味線という弦楽器に、尺八、そして打楽器を加えた3つの要素、これは3人の魔女ともリンクするところでもあり、そこにつがいの人間、というのがひとつのコンセプトですね。

—「マクベス」では舞台上の正方形の布が
能舞台のようにも見えます。
その空間づくりについて教えてください。

萬斎—舞台上に三間四方の四角い布を敷いて、ツアー公演先では舞台の大きさに合わせて二間四方から四間四方まで大きさを変えますが、とにかく四角い布を敷くことで、舞台の外に舞台があり、さらに外側に観客席がある。この構造は近代でもやりますが、実は能の発想で、魔女たちがずっと四角い舞台の外で見ているんです。劇中劇のようでもある、そこらへんが非常にお芝居らしいところで。

僕も演出する人間なので、どちらかというと魔女的な立場でこの芝居に取り掛かるわけです。魔女がマクベス夫妻にざまあみろと思う場面は、夫妻にとっては迷惑だったり、可哀想なことだったり、そういう両方向の目線がある。お客さんにも、魔女の目線になったり、夫妻の目線になったり、視座が変わるところに面白みを感じてほしいと思います。



高田恵篤、小林桂太、福士恵二 撮影・石川純

きれいはきたない。きたないはきれい。

飛んで行くよ、霧と織れた空の中。

「マクベス」第一幕第一場より
訳 河合祥一郎

—最後に「マクベス」を通してもっとも訴えたい
メッセージは？

萬斎—古典と言いながらも現代を映す鏡であることが重要です。能狂言が650年、シェイクスピアも400年以上の伝統がある。それだけずっと世の中を映してきたということ。世の中の抗争を見ても、双方向から見ないと公平な目というのではない気がします。

自分は良かれと思うことでも、相手にとっては迷惑なこともあるわけで、逆も真なり。それと自然対人間という大きな構造を自分の中では持っているつもりです。魔女という存在をどう捉えていくかという、自然の代表者、自然とつながる者、自然からの使者、という発想も成り立つ。では自然は美しいかという、そうではなくて、自然の怖さを今、日本人は知っていますよね。そこがまさしく「きれいは汚い、汚いはきれい」という、「マクベス」の冒頭に魔女たちが言う不思議な言葉です。

これをどう解釈するかというのが僕の博士論文です。「きれいは汚い」というのは、「正しいと正しくない」と言い換えることもできます。奇しくも3月11日の前に僕はこれを上演して、思うところがあるわけです。原子力発電がいいとか悪いとかいう前に、地球上にないものを人間が作っていいのだろうか?クローンもそうですが、人間の欲望として生活を便利にさせたいと突き進めば、困ることに必ずゴミが出る。核分裂でエネルギーを得て、そこで生まれたゴミはどうするのか。そこには目も触れず、便利だけを目指していくために、不便がこのようにゴミの山になるわけです。正の財産と負の財産が実は同居しているというの、この言葉は表しています。

ストーリーを楽しんでもらうのと同時に、もうちょっと大きな、俯瞰した目線として、宇宙観、世界観を感じ取ってもらえたらと思っています。

第16回「4年目を迎えて」



プラットニュースも4年目、19号を迎えました。今号から装いを新たに、より幅広い内容を、より深く、よりなじみやすく伝える情報誌をめざします。

さて東京では今、劇場やホールが改築などで次々と閉館し、会場を押さえるのが大変だと聞いています。青山劇場、PARCO劇場など名だたる劇場ばかりです。名古屋でも御園座や名鉄劇場が閉館しました。一方地方都市では、京都、久留米、長野などで新しい劇場が誕生しています。

こういう時こそ地域の劇場が存在感を見せる時かもしれません。ただ、新しい、きれいな建物ができるのはもちろん喜ばしいことなのですが、誰のために何のために劇場があり、どういうものをどういうやり方でやっていくか、が大事なのではないのでしょうか。

私が芝居を始めた70年代から現在まで、倉庫や工場の跡、ビルの一室、地下室や屋上、居酒屋の一角、またはテントやストリートなど、過酷な条件で数多くの芝居やダンスなどの公演が行われてきました。その雑草のような遅さから時代を担う才能が輩出されました。その人たちが今や商業的な大劇場に進出し、テレビや映画で力を発揮し、芸術監督!(私はアドバイザーですが…)になったりしています。

彼らには共通して何をやりたいか、なぜやりたいかがはっきりしていたといえます。つまり、つくるよろこびを持ち続けられたといえます。

よろこびは誰にでも開かれていなければなりません。ひとは誰でも生きるよろこびや生きる意味を実感したいし、できるからです。それを身をもって実践しているのが、過酷な条件で人生をかけて芸術に情熱を注いでいるアーティストといえるでしょう。

誰のために何をどういうやり方で考えると、限られた人たちのよろこびを、どうやってさまざまな境遇のいろいろな考えのひとに体験してもらえるか、そのためには、劇場やアーティストはどうしたらいいのか、がこれからのプラットの課題かもしれません。

INFORMATION

PLAT主催公演情報

「獵銃」
中谷美紀、ロドリグ・プロトー



葛河思潮社「浮標」
長塚圭史



田中哲司



口字ック「荒川、神キラーチューン」



撮影・大滝央子

チケットの購入・お問合せ

プラットチケットセンター

- 劇場窓口・電話 0532-39-3090[休館日を除く 10:00-19:00]
- オンライン <http://toyohashi-at.jp>[24時間受付・要事前登録]

U24・高校生以下割引ご案内

- 料金=U24[24歳以下対象]:公演ごとに指定する席種の半額/高校生以下:一律1,000円
- 購入方法=各公演の一般発売初日から窓口にて取扱い。
- その他=本人のみ1公演につき1人1枚。枚数限定。座席の指定はできません。要・入場時身分証明書提示。

ダニ・リマ「Little collection of everything」



撮影・Renato Mangolin

「わかつたさんのクッキー」



撮影・前澤秀登

「松竹大歌舞伎」
中村梅玉



中村芝雀



松本幸四郎



4/22 [金] 19:00開演・4/23 [土] 14:00開演

詩のリーディング

(お)もろい夫婦

好評販売中

平田俊子さんと本人を迎え、PLATアールスペース客席150席程度の密な空間に仕立てて詩のリーディング公演を開催いたします。●詩=平田俊子●構成・演出=平田満●出演=平田満、井上加奈子、平田俊子●会場=PLATアールスペース●料金=[全席自由・日時指定・整理番号付]一般3,000円ほか

4/24 [日] 13:30開演

春風亭小朝 独演会

好評販売中

ドラマ出演や音楽界とのコラボ、プロデュースなど幅広い分野でその才気を発揮している小朝師匠が今年もPLATにやってきます!●出演=春風亭小朝●会場=PLAT主ホール●料金=[全席指定]一般3,500円/ユース(24歳以下)2,500円

5/4 [水・祝] 11:00-19:00・5/5 [木・祝] 11:00-17:30

とよはしアートフェスティバル2016

大道芸 in とよはし

今年も大道芸がやってくる!ゴールデンウィークの二日間、世界で活躍する大道芸人たちが豊橋駅周辺を劇場に変身させます。●会場=穂の国とよはし芸術劇場PLAT、ココアベニュー 2階テラス、豊橋駅南口駅前広場、広小路通り、豊橋公園ほか●料金=無料

5/14 [土]・5/15 [日] 13:00開演

獵銃

好評販売中

中谷美紀主演!熱い声に添えて、あの傑作が再び。初舞台にして、各演劇賞に輝いた文豪井上靖『獵銃』を完全舞台化。カナダ人演出家フランソワ・ジラルドが描く、三人の女のラブストーリー。●原作=井上靖●脚案=セルジュ・ラモット●日本語台本監修=鴨下信一●演出=フランソワ・ジラルド●出演=中谷美紀、ロドリグ・プロトー●会場=PLAT主ホール●料金=[全席指定]一般9,000円ほか

6/11 [土]・6/12 [日] 14:30開演

PLAT小劇場シリーズ

カンパニーテラシネラ

ロミオとジュリエット

世界中で愛される名作恋愛悲劇を、言葉を越えて身体と不思議な美術で見せる70分。●会員先行・2公演セット券=4月16日(土)●一般発売=4月23日(土)●原作=W.シェイクスピア●翻訳=松岡和子●演出=小野寺修二●美術=石黒猛●出演=斉藤悠、崎山莉奈、王下貴司、大庭裕介、藤田桃子、小野寺修二●会場=PLATアールスペース●料金=[全席自由・日時指定・整理番号付]一般3,000円ほか●『荒川、神キラーチューン』とのセット券(5,000円・枚数限定)あり

6/25 [土]・6/26 [日] 13:00開演

マクベス

●原作=W.シェイクスピア●翻訳=河合祥一郎●構成・演出=野村萬斎●音楽監修=藤山道山●出演=野村萬斎、鈴木砂羽、小林桂太、高田恵篤、福士恵二●会場=PLAT主ホール●前売予定枚数終了:当日券の販売に関してはお問い合わせください。

6/24 [金] 19:00-20:30

【関連企画】

「マクベス」プレトーク

●会場=PLAT研修室(大)●出演=河合祥一郎(英文学者・東京大学大学院教授)●参加料=無料(定員50名・要事前申込)●申込=プラットチケットセンター(電話 0532-39-3090)

7/9 [土]・7/10 [日] 14:30開演

PLAT小劇場シリーズ

口字ック

荒川、神キラーチューン

ひとりの女教師の14年前の後悔の物語。市民と創るスケッチ群像劇『話しグルマ』の脚本をつとめた山田佳奈が主宰する劇団口字ックの代表作です。●会員先行・2公演セット券=4月16日(土)●一般発売=5月8日(日)●作・演出=山田佳奈●出演=町田マリー、小野寺ずる、日高ボブ美ほか●会場=PLATアールスペース●料金=[全席自由・日時指定・整理番号付]一般3,600円ほか●『ロミオとジュリエット』とのセット券(5,000円・枚数限定)あり

8/11 [木・祝] 13:00開演

葛河思潮社

浮標 ぶい

「生とは何か」「死とは何か」という根源的な問いを突きつける三好十郎作の名作『浮標』を長塚圭史の演出により上演します。●会員先行=5月22日(日)●一般発売=5月29日(日)●作=三好十郎●演出=長塚圭史●出演=田中哲司、長塚圭史ほか●会場=PLAT主ホール●料金=[全席指定]S席6,000円/A席5,000円/B席3,000円ほか

5/20 [金] 19:00-21:00

【関連企画】

小野寺修二身体ワークショップ

「まず見ることから始めてみる」

申込受付中

●講師=小野寺修二・藤田桃子●会場=PLAT創造活動室A●対象=高校生以上、定員20名(応募者多数の場合は選考)●締切=5月10日(火)17:00必着●申込方法=①申込書に必要事項を記入の上、窓口を持参かFAX②劇場ホームページの専用申込フォームより申込



「ロミオとジュリエット」
イラスト・チアラシデザイン
チャーハン・ラモーン

8/17 [水]・8/18 [木] 15:00開演

あいちトリエンナーレ2016 パフォーマンスアーツ
ダニ・リマ(ブラジル)

Little collection of everything

日常的な物や仕草を遊びながら再発見するブラジルのカンパニーの初来日公演。こどもも楽しめるダンスパフォーマンスです。●会員先行=5月21日(土)●一般発売=6月25日(土)●会場=PLATアールスペース●料金=[全席自由・日時指定]一般3,000円/学生(25歳以下)1,500円/中学生以下500円4歳以上は有料●『わかつたさんのクッキー』との同時購入特典あり

8/27 [土] 15:00開演

8/28 [日] 11:00開演/15:00開演

8/29 [月] 14:00開演

おいしいおかしおしばい

「わかつたさんのクッキー」

人気児童書「わかつたさん」シリーズが初の舞台化!こどもおとなも一緒に楽しめる作品です。現代日本の若者を先鋭的に表現し、ゼロ年代の代表として海外でも高く評価される演劇カンパニー・チェルフィツチュの岡田利規をはじめ、美術は、海外でも数多く展覧会を催す人気若手現代美術家の金氏徹平、劇中歌は、新進気鋭のシンガーソングライター前野健太が、今までの児童劇とは異なるアプローチで作品を創り上げます。●会員先行=5月21日(土)●一般発売=6月12日(日)●原作=寺村輝夫(寺村輝夫著『わかつたさんのクッキー』/あかね書房より)●台本・演出=岡田利規●会場=PLATアールスペース●料金=[全席自由・日時指定・整理番号付]おとな3,000円/U24(24歳以下)1,500円/こども500円4歳より入場可●ダニ・リマ『Little collection of everything』との同時購入特典あり

8/27 [土] 11:00-12:30(予定)

【関連企画】

金氏徹平 美術ワークショップ「白い彫刻を作ろう」

●会場=PLAT創造活動室B●対象=小学生●料金=入場チケットをお持ちの方は無料。チケットが無い場合は500円●定員=15名●申込=5月21日(土)よりプラットチケットセンター(電話 0532-39-3090)にて受付開始

9/3 [土] 12:30開演/17:30開演

松竹大歌舞伎

中村芝雀改め五代目中村雀右衛門襲名披露

豪華俳優陣による襲名披露公演。当日はプラット茶屋の開店や特製弁当の販売など、劇場が丸一日歌舞伎小屋に変身!演目は『當年祝春駒』『五代目中村雀右衛門襲名披露口上』『仮名手本忠臣蔵』。●会員先行=6月4日(土)●一般発売=6月19日(日)●出演=松本幸四郎、芝雀改め五代目中村雀右衛門、中村梅玉ほか●会場=PLAT主ホール●料金=[全席指定]S席10,000円/A席7,000円/B席5,000円ほか

9/25 [日] 16:00開演

劇団四季ファミリーミュージカル

王子とじき

『トム・ソーヤーの冒険』などで知られるアメリカの文豪マーク・トウェインが1881年に書いた同名小説をミュージカル化。本当の幸福とは何かを問うける作品です。●会員先行=6月5日(日)予定●一般発売=6月11日(土)予定●会場=PLAT主ホール●料金=S席一般5,000円(小学生以下3,000円)/A席一般3,000円(小学生以下2,000円)

10/4 [火] 19:00開演

小曾根真×ゴンサロ・ルバルカバ ピアノデュオ

最も輝いているピアニストのひとり、小曾根真と、キューバの至宝と言われるゴンサロ・ルバルカバによるピアノデュオ・コンサートです。●会員先行=6月18日(土)●一般発売=7月3日(日)●出演=小曾根真、ゴンサロ・ルバルカバ●会場=PLAT主ホール●料金=[全席指定]S席6,600円(ユース・3,300円)/A席5,000円(ユース・2,500円)ほか

東三河の若手音楽家育成

プラットワンコインコンサート

「若い音楽家には活躍の場を、お客様にはより音楽を楽しめる機会を」と企画されたPLATオリジナルのワンコインコンサートです。500円で60分の贅沢なひとときをお過ごしください。●会場=PLATアールスペース●料金=[全席自由・整理番号付]500円

●販売中

5/21 [土] 14:00開演 中村麻梨絵(ソプラノ)・山口茉莉子(ピアノ)

6/27 [月] 19:00開演 ピアノ連弾ユニットKIWA(井垣壮太、高岡準)

●会員・一般同時発売 5月21日(土)

8/8 [月] 11:30開演 宮脇泉月(ヴァイオリン)

8/22 [月] 11:30開演 宮部まどか(ピアノ)

シェイクスピア没後400年記念

シェイクスピア講座

日本の第一線で活躍する演劇人が、シェイクスピアの代表作について語るレクチャーです。●会場=PLATアールスペース●参加料=1講座500円●申込=4月10日(日)よりプラットチケットセンター(電話 0532-39-3090)にて受付開始

5/23 [月] 18:30-20:00 「ロミオとジュリエット」×シェイクスピア音楽

講師=松岡和子(翻訳家)、永田平八(リュート奏者・作曲家)

*アフタヌーン・ハーフトタイム・コンサート『リュート演奏で巡るシェイクスピア』講師・奏者=永田平八 15:00-15:30

5/24 [火] 18:30-20:30 「ヴェニス商人」×シェイクスピア音楽

講師=鶴山仁(演出家)、永田平八(リュート奏者・作曲家)

*アフタヌーン・ハーフトタイム・コンサート『リュート演奏で巡るエリザベス朝時代』講師・奏者=永田平八 15:00-15:30

8/4 [木] 18:30-20:30 「ハムレット」講師=谷貫一(劇作家・演出家)

9/2 [金] 時間未定 「十二夜〜シェイクスピアと歌舞伎〜」講師=松

井今朝子(作家)、松岡和子(翻訳家)

PLAT CALENDAR

5 MAY

4 [水・祝]・5 [木・祝] とよはしアートフェスティバル2016「大道芸 in とよはし」
◎PLATほか



- 10 [火] 桂文我 独演会◎PLATアートスペース
- 14 [土]・15 [日] 「獵銃」◎PLAT主ホール
- 14 [土] 前川健生 テノール・コンサート◎PLATアートスペース
- 15 [日] 映画「望郷の鐘」上映◎PLATアートスペース
- 18 [水]—20 [金] 豊橋演劇鑑賞会 第254回例会 劇団民藝「集金旅行」
◎PLAT主ホール
- 21 [土] プラットワンコインコンサート 中村麻梨絵・山口茉莉子「春の風に乗せて」
◎PLATアートスペース
- 22 [日] 東三河ふれあい看護フォーラム2016◎PLAT主ホール
- 28 [土] WHY ジャズ楽団 Live at プラット◎PLATアートスペース
- 29 [日] 和太鼓コンサート 三団体 夢の共演「三つ巴」◎PLAT主ホール
橋幸夫 講演会◎PLATアートスペース

6 JUNE

- 3 [金] 前進座公演「怒る富士」◎PLAT主ホール
- 4 [土] 山崎ハコ64ライブ IN 豊橋 Vol.2 with 安田裕美
◎PLATアートスペース
- 5 [日] 斎竹恭子バレエスタジオ 第25回発表会◎PLAT主ホール
- 11 [土]・12 [日] PLAT小劇場シリーズ カンパニーデラシネラ「ロミオとジュリエット」
◎PLATアートスペース
- 12 [日] 第3回 輪の会 民謡のつとめ◎PLAT主ホール
- 19 [日] 特選東西競演落語会◎PLAT主ホール
東三河ウエディングマルシェ 2016◎PLATアートスペース
- 25 [土]・26 [日] 「マグベス」◎PLAT主ホール



- 25 [土] ドリールの会 発表会◎PLATアートスペース
- 26 [日] 第34回アコーディオンコンサート◎PLATアートスペース
- 27 [月] プラットワンコインコンサート KIWA「2台ピアノ・ナイトセッション」
◎PLATアートスペース

SUPPORT

SAN-EN 知識製造業
http://www.san-en.co.jp

魚伊 有限会社 魚伊
電話 52-5256

株式会社 竹尾建築設計事務所
代表取締役 竹尾 誠
豊橋事務所 / 豊橋市平川南町91-2 〒440-0035 Tel.0532-62-1331(代) Fax.0532-62-1332
浜松事務所 / 浜松市東区流通元町13 〒435-0007 Tel.053-422-3628(代)

Gallery 48 呉服町48 TEL.54-4848

グロリアンピアノ地域特約店
白羽楽器 株式会社
電話053-464-3015

竹内産婦人科
産婦人科 婦人科(不妊治療)
豊橋市新本町23 (豊橋 竹内産婦人科) 休診日

内科・消化器科・循環器科・眼科・整形外科・脳神経外科・リハビリテーション科
医療法人 羔羊会 弥生病院
日本医療機能評価機構認定 渡辺のり子(東高2回生)
〒441-8106 豊橋市弥生町字東豊和96 電話(大代) 48-2211

YMバレエカンパニー
21/8610

看板広告 アラキスタジオ
豊橋市上伝馬町16 電話52-5586番

本と文具なら
精文館書店
TEL.54-2345

医療法人慈豊会
大島整形外科クリニック 院長 大島 毅
東田町井原39の7(市電赤岩口終点前) 電話62-5511(代)

ONOCOM 株式会社 オノコム

株式会社 谷山建築設計事務所
豊橋市西羽田町183 http://taniyama-archi.com

外科・内科・胃腸科・麻酔科・消化器科・呼吸器科
伊藤医院 伊藤之一 伊藤文二
豊橋市小池町字原下35 電話45-5283(代)

創業文政年間 **森きく宗**
豊橋市新本町40 電話52-5473番

豊橋銀行協会 (順不同)
三菱東京UFJ銀行 みずほ銀行 静岡銀行 名古屋銀行
三井住友銀行 三井住友信託銀行 清水銀行 第三銀行
十六銀行 愛知銀行 中京銀行 大垣共立銀行

御菓子司 **若松園** 創業江戸
調理と製菓のおいしい資格。
豊橋調理製菓専門学校
豊橋市八町通一丁目22-2 TEL53-2809

気まぐれコンサート
事務局 / 0532-62-9259 (小川恵司)

安心・安全な地下駐車場
パーク500 ソワの親子の
豊橋主ホール・アートスペース公演等へのお客様は
30分150円を30分100円(上限4時間まで)に割引します。

整形外科・リハビリテーション科・リウマチ科・麻酔科
塩之谷整形外科
院長 塩之谷 昌 副院長 塩之谷 香
豊橋市植田町関取54 電話0532-25-2115(代)

豊橋名産 **舟ちくわ**

井上皮フ科クリニック
診療時間 月・火・木・金 10:00～13:00 16:00～19:00
土 10:00～14:00 休診日=水・日・祝
電話0532-55-7007 愛知県豊橋市向山町字中畑13-1 マイルストーン1F

プラス・ワンの付加価値をお客様に提供いたします。
共和印刷株式会社
豊橋市小池町36番地の1 TEL46-3281 FAX46-3285

整形外科・皮膚科・リウマチ科・リハビリテーション科
医療法人 大岩整形外科・皮フ科
院長 大岩俊久 豊橋市大橋通二丁目115 電話55-2100

伝統的工芸品豊橋筆
書道用品専門店 **高誠堂**
豊橋市呉服町四拾四番地 電話52-5514

本の豊川堂
本店54-6688番 / カルミア店55-2810番 / アビタ店54-6351番

練物專家 **たけなご**
コクラフロント ホテルアークリッシュ 1F

ISO9001 ISO14001 愛知ブランド企業 認証・認定取得
株式会社 三光製作所
三光精密工業株式会社
豊橋市佐藤一丁目12番地の3

Storyteller tells the Story
物語コーポレーション

生活にファインクオリティ

sala

広告募集

TICKET CENTER

チケットの購入・お問合せ

プラットチケットセンター

電話・窓口
0532-39-3090 [休館日を除く10:00～19:00]
オンライン
http://toyohashi-at.jp [24時間受付・要事前登録]

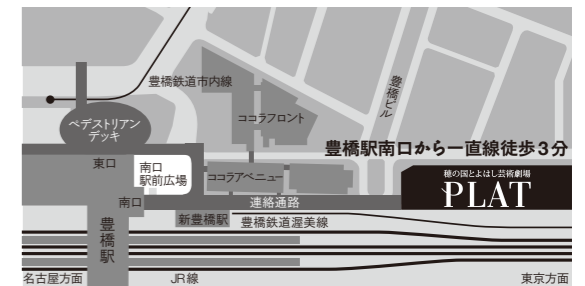


プラットフレンズ募集 入会金・年会費無料

- 特典
- 1 公演情報をメールでご案内します。
 - 2 インターネットでチケット予約ができます。
 - 3 主催公演のチケットを一般発売に先がけてご予約できます。
- ※劇場窓口またはホームページからご登録いただけます。

U24・高校生以下割引ご案内

- ほぼすべての財団主催公演に、若い人にお得な料金を設定しています。
- 料金
U24[24歳以下対象]:公演ごとに指定する席種の半額
高校生以下:一律1,000円
購入方法
各公演の一般発売初日から窓口にて取扱い。
その他
本人のみ1公演につき1人1枚。枚数限定。
座席の指定はできません。要・入場時身分証明書提示。



〒440-0887 愛知県豊橋市西小田原町123番地
電話0532-39-8810[代表]
開館=9:00-22:00 休館日:第三月曜・年末・年始。
第三月曜が祝日の場合はその翌平日。
豊橋駅(JR東海道新幹線、東海道本線、名古屋鉄道)、
新豊橋駅(豊橋鉄道渥美線)直結。豊橋駅南口から徒歩3分。
※駐車場はありません。公共交通機関をご利用いただくか、
お近くの公共駐車場等をご利用ください。

穂の国とよはし芸術劇場 PLAT